

技術で世の中を驚かせる会社へ

代表取締役社長 安永 暁俊



いよいよ新年度が始まりました。今年は15名の新入社員を仲間として迎え入れ、非常に嬉しく思っています。新しい仲間とともに、新しく始まる中期計画の目標達成に向けて一歩ずつ進みましょう。

今回は安永グループで取り組んでいる中長期の目標について述べます。「グローバルニッチ No.1」は15年間、「技術で世の中を驚かせる会社へ」は3年間掲げてきました。おかげさまで、皆さんにも身近になってきたと思います。

ちなみにAI検索によると、「技術とは科学の原理を役立てて、ものを生産したり組織したりする仕方や技、物事を巧みに能率的に行う技」とあります。このように幅広い意味で技術という言葉を使っていますので、あらゆる部署の皆さんに関連することだと受け止めてください。

安永グループ第7次中期計画(2023～2025年度)

2023～2025年度の振り返りをしたいと思います。2023年時点では、自動車業界において急速なEV(電気自動車)化が進むとの予想が多くありました。私自身はトヨタ自動車の提唱するマルチパスウェイ(エンジン車、ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車の全方位推進)が合理性もあり現実解だと考えていましたが、エンジンそのものへの逆風が吹いていました。しかしながら2025年には、急速なEV化は起こりえないことが明白となり、マルチパスウェイへの社会の理解が進みました。ユーザーが多様な選択肢から選べるのが、これからのモビリティ社会のあり方となります。

3年の間で紆余曲折しましたが、結果として、当初掲げた2025年度計画に近い良い業績を上げることができました。

安永グループ第8次中期計画(2026～2028年度)

2026～2028年度も、安永グループは力強く成長して

いきます。まず「グローバルニッチ No.1の柱を太くする」そして、引き続き「技術で世の中を驚かせる会社へ」としました。

そのためには、まず私たち自身が技術研鑽をしなければなりません。技術研鑽とは、「自らの技術や知識を磨き、高めるために地道に努力し続けること」です。皆さんの研鑽が積み重なって、ものづくり企業として技術の進化や探索を行うことが出来ます。全社的な取り組みである原価低減や生産性向上、品質改善を始めとして、各製品固有の設計や開発などその範囲は多岐にわたります。

安永の技術を高めることで、それらが自動車、産業機械、農業機械、レジャービークル、半導体、電子部品、携帯電話、住宅設備等の幅広い業界で、ますます使用されるようになります。伊賀忍者のごとく隠密に、いつの間にか生活の中に入り込んでいて、社会の豊かさに貢献している。いつか人々が気づいて結果として驚かれる。そんな想いを込めています。これからも世の中に必要とされる会社でありたいものです。

人が中心となって技術を進化させる

技術を進化させる、ものづくりを進化させるのは人です。最近、生成AIの活用が広がっていますが、技術を進化させるには人間の創造力が不可欠となります。皆さんの創造力こそが0から1を生み出せるのです。独創的な技術を生み出すには、皆さんの独創的なアイデアが必要です。そのためには多様な意見を議論させることも時に必要です。ピッチャーで例えると、ストライクゾーンに剛速球を投げる人と別に、ボールゾーンに変化球を投げる人もいと多様性が生まれます。技術の前ではみな平等ですので、恐れず自分のアイデアを述べてください。「さん」づけルールも15年を迎えました。社内で、皆さんがフラットな立場で活発に議論することを望みます。

既存技術の進化と新技術の探索で「安永にしかできないこと」を実現



既存技術の進化

ここから既存技術の進化と新技術の探索について、具体的に述べます。安永の技術をザックリと一覽にしました。実際には各事業で書ききれない程の技術がひしめき合っています。

製品の量産製造という面では、部品事業と環境機器事業が共通しています。生産技術開発と工程設備設計を磨くことで、量産ラインの良い生まれに繋がります。それを育てるのは量産製造での原価低減や生産性向上になります。また、あらゆる現場でQCD(品質・コスト・納期)を磨き上げ、お客様の期待に応えることで、ものづくりの「能力構築」に繋がっています。それに加えて、部品事業であれば精密加工の知見を、環境機器事業であれば自社製品としての微生物処理や微粉碎の知見を積み重ねています。

一方、機械装置事業は切削・切断・研磨といった加工の要素技術やセンシング・測定といった検査の要素技術を進化させています。専用機(二軸加工機等)と標準機(ワイヤソー、検査装置、電極活性化装置等)といった「製品アーキテクチャ」が全く違うので、それぞれに応じた強みを追求していきます。メカと制御を組み合わせた機械設計製作で、未知の設備づくりへもチャレンジしています。幅広い業界向けに設備を手掛けていますので、自動車業界、電子部品業界、半導体業界等の技術動向を市場調査・マーケティングしています。

「能力構築」と「製品アーキテクチャ」は聞き慣れない言葉だと思います。文末の書籍に書かれていますが、当社の役員・管理職はこれらを読本して学んでいますので、その意味を教えてください。

コンロッド世界シェアの拡大
2025年度5% ▶ 2028年度7%
北米市場・日本を含むアジア市場の受注拡大
(部品・機械装置・環境機器)

新技術の探索

次に、新技術について振り返ってみます。15年前から探索を始めており、近年、微細形状の新技術から2つ

の事業化に繋がりました。一つは、バッテリーの電極活性化装置です。すでにバッテリーメーカー向けに試作機や量産機の販売をしております。もう一つは、携帯電話のペーパーチャンバー部品向けウィックシートです。これは、年々、携帯電話のCPUの性能が向上しAI活用や5G通信などで発熱量が増えてきた現状を解決する技術となります。

今回、安永の独創的な微細形状を「微匠」と名付けました。微細形状を匠が仕上げるイメージです。英語名は「BMF(Billions of Mt. Fuji)」と名付けました。0.3m x 6mのシートに富士山型の孔が10億並んでいるイメージです。

現在、微匠技術は熱マネジメント以外にも様々な業界への応用が広がっています。今後、社会的な課題を微匠技術で解決できる可能性を追求していきます。

微匠技術の用途拡大による更なる新事業の創造

経営基盤の強化

ここまで技術という切り口で述べてきました。日本は1970年代から80年代にかけて、技術立国としての地位を確立しました。資源のない日本が持続的に発展するには、強い科学技術力が不可欠です。そして、資源の少ない日本でものづくりを進化させるには、一人ひとりの生産性の向上がカギとなります。

会社として、皆さんが能力を発揮しやすいような環境を整えていきます。新本社の建設を始め、食堂のリニューアルを進めてオフィスと工場の快適空間を増やします。IT(情報技術)による全社的な新システムを構築することにより、ムダな作業を削減し業務効率を上げていきます。また、地域に愛される会社として、地域貢献をより進めます。安永総合サービスでの宅配弁当を「やすなが見守り配食」と名付けました。地域への配食を通じて、高齢者の方々を見守っていく想いを込めています。

安全と品質を第一に

当然ながら、何事にも安全と品質を第一に考えるべきです。それは忘れずに徹底してください。

1年前に私から皆さんへ、自動車業界の大変革期を乗り越えるために、全社的な活人化へのご理解とご協力をお願いしました。お陰様で、重点事業へ機動的に異動してもらうことも増え、個人と組織がともに成長できる雰囲気になってきました。ありがとうございます。皆さんの成長と会社の成長を感じながら、実りある未来へ向けて一緒にやりましょう!

参考文献 日本のものでづくり哲学(増補版) 藤本隆宏著
能力構築競争 日本自動車産業はなぜ強いのか